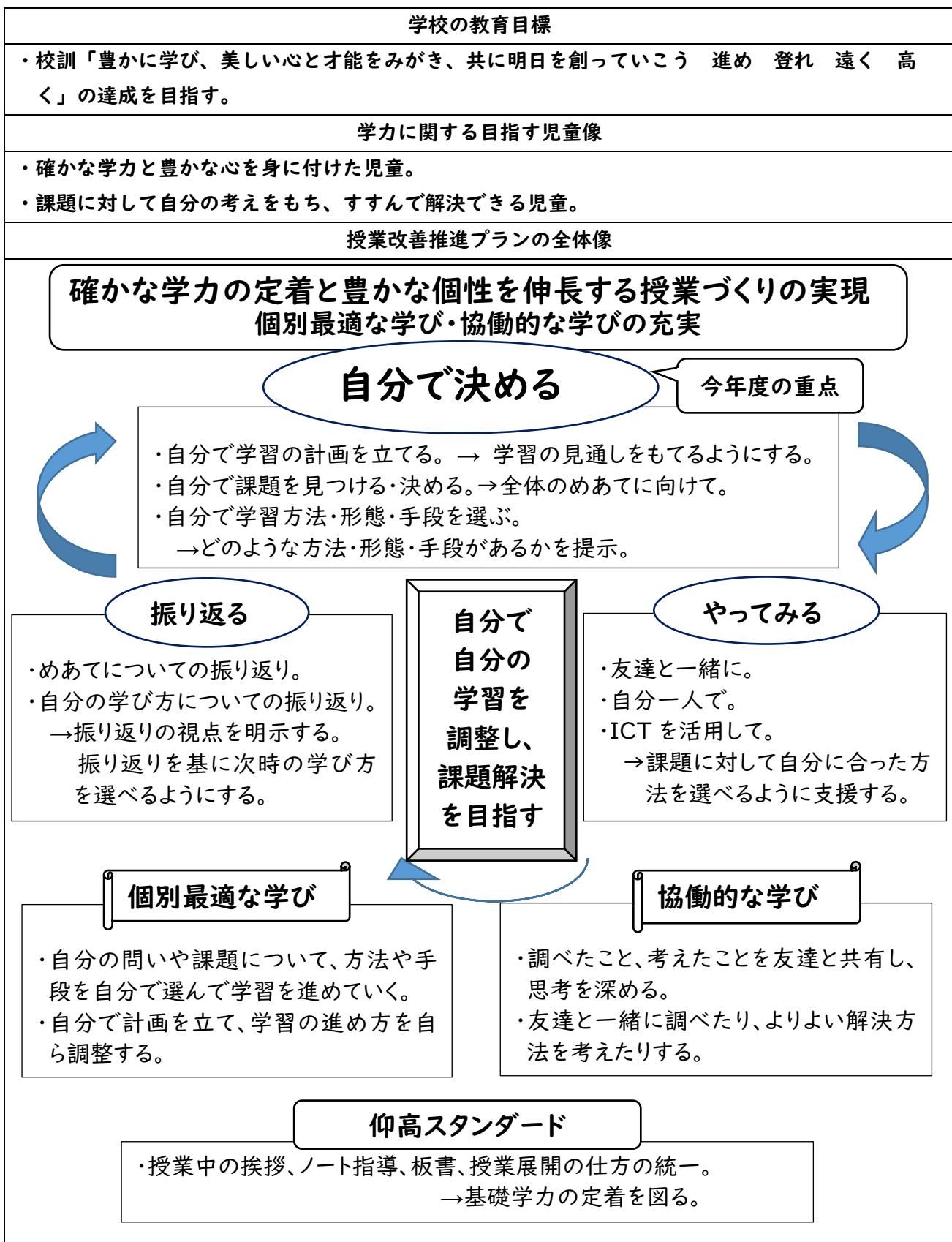


学校名 豊島区立仰高小学校

校長名 仁科 光一



令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目標を児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・自己紹介しあったり、好きなものを伝え合ったりする中で、伝えたいことが言葉にできない児童もいる。	・友達の考え方や教科書を参考にする、周りの児童に聞いてみるなど選択肢を提示して、自分の思いを伝えられるように、手立てを掲示する。
低	・文章を書く、話す場面で適切な言葉で表現する力について個々の差が大きい。 ・語彙が少ない。	・書くこと、話すことについてモデルを示し、文型、話型に当てはめていくことを繰り返し、定着できるようにする。 ・司書と連携し、学習内容に沿って並行読書を活用していく。実態に合わせて本の内容を選別し、難易度別で選べるようにするなど、工夫していく。
中	・物語文の読み取りは授業において向上するが、比較して、説明文の筆者の考え方を書き抜く力が低い。 ・文章力に差が見られる。日記を書き慣れていない。（5W1Hが不足）	・学習活動を通して、発問を正しく聞き取る、文章による問い合わせを読み取る力を高める。相手の意見を聞いて、考え方を広げたり、聞き取ったりする指導を行う。 ・読む力を高めることで、自分の考え方をもつ思考力を高める。その上で、文章力を高める。
高	・文章等を「書くこと」に関して、個人差がある。	・目的や相手を明確にし、学習計画に見通しがもてるようとする。 ・教科書の作例や友達の書き方を参考にするなど、自分の書く力に合わせて、よりよい学習の仕方を選択し、すすんで書くことができるようとする。

2 社会科

目標を児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・生活に生かすための授業が行えていない。 ・資料を読み取る力に個人差がある。	・「つかむ→しらべる→まとめる→いかす」の授業の流れを実践していく。 ・グラフの読み取りでは、縦軸と横軸をおさえ、資料では、タイトルを確認するなど、資料を読み取る力を高めていくようにする。

高	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、自分なりに考えをもつ力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の取り組み「自分できめる→やってみる→振り返る」の流れを授業に取り入れ、自分の意見をもつことを日常的に取り組むことができる授業を実践していく。
---	--	--

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・数量感覚や数字の読み書きにおいて、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学力を把握し、個に応じた指導をする。 ・具体物と関連付けて、理解できるようにする。
低	<ul style="list-style-type: none"> ・長さ、かさ、時刻と時間の知識・技能の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習や家庭学習に取り組ませる。 ・具体物や反具体物を活用して、視覚的に考えたり体験を通して量感を養ったりできるようにする。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・表に整理したり問題場面を図で表したり、図形の活用問題の学習内容の定着が不十分である。 ・読み取る力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習において、表に整理したり問題場面を図で表したりする学習内容を大切に扱っていくようにする。 ・教科書問題や補充問題の場面把握や問い合わせの理解を児童の実態にあわせて確認、支援する。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・もとにする数、比べられる数を問題から読み取れず、演算決定ができていない児童が多い。 ・図形の問題を読み取る力、活用問題の学習の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラスによる授業展開を活用し、学年の学力の底上げ、レベルごとの児童にあった授業進度・内容・補充・活用を行う。各クラス担任と単元ごとの児童の実態を確認する。 ・授業で教科書に沿った問題の理解を定着させ、習得した知識・技能を活用する応用問題、児童の身近な事例から考えられる問題などを扱う。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で実験計画を立案したり、ICTを活用して学習の見通しや結果を共有したりして、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。 ・自分で学習方法工夫しながら、自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けたり、問題解決の力を養ったりする。 	

学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の構造と機能の学習に対し、興味関心が高い。一方で、それが知識として身に付きにくい傾向がある。 ・磁石や電流等、エネルギーに関連した学習において理解の差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験に基づいた知識の構築ができるようにする。 ・生活体験と自然事象の結びつきを高める。 ・実験の結果から得られた性質や働き、規則性等を体験的に理解できる指導を行う。 ・「予想・計画・実験・考察」の授業展開の徹底、定着を図る。記録を読み取り、思考し活用できるように指導を行う。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画の立案ができない児童が多い。 ・ふりこ、電磁石、閉じ込めた空気の知識・技能の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画を立案させるとき、児童同士で話し合いの時間を設ける。を行う。 ・実験器具の名前を確認したり、問題に応じて器具を選択できるようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力

- ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようとする。
- ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・学校生活への適応や友達との関わり方について、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲を認めて、積極的に称賛する。 ・個々の様子をよく見て、必要な児童には個別に声かけをする。
低	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活と結びつけて生かそうと考えることが難しい。 ・生活科の活動に積極的に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に、学ぶテーマと自分たちの関わりについて意識させる問い合わせを行う。 ・学んだことをどう生かしたいかを考えさせる振り返りの時間を十分に設ける。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力

- ・曲想と音楽の関わりについて感じ取ったり理解したりするとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を養う。

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を感じ取って体を動かす活動に意欲的に活動したり、リズムにのって歌ったりする一方、正しくリズムを打ったり鍵盤ハーモニカを演奏したりする技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせてリズムを打つ活動や視点を絞って友だちと聴き合ったり教え合ったりする活動を取り入れながら技能の定着を図っていく。

中	・歌唱の学習に対する意欲があり、歌声の音色を意識できるようにもなってきた。器楽の学習では、リコーダーのタンギングや息の調整があと一步の児童が一定数いる。	・困難なフレーズを短くしぶって練習し、集中して取り組めるようにするとともに、できたという達成感を感じられるようにする。 ・ペア学習やグループ学習を適宜取り入れ、聴き合ったり教え合ったりすることで習熟を図る。
高	・美しい歌声を意識できる児童が多い一方、豊かな声量で自信をもって歌うことには課題が見られる児童もある。	・美しく豊かな歌声が出せるよう、腹式呼吸を意識させたり、長く伸ばす活動を取り入れたりする。 ・短いフレーズを選んで少人数で歌う活動を取り入れ、自信をもって歌えるようにしていく。

7 図画工作科

を目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・低学年らしく、絵や立体に表すどんな題材に対しても興味を持ち、作品に表すことを楽しんでいるが、題材で求めていることへの理解力が乏しいがために、めあてにそった表現活動ができていない児童が多い。	・導入時、参考作品を例示するときに、よく鑑賞させ、めあてにそったどんな工夫があるか、気づきの時間を設定する。 ・図工の学びって何だろうということを投げかけながら、材料と関わり、題材にそった学びのある自己表現へと向かわせる。
中	・3、4年とも、絵や立体に表すことを楽しむように、前向きの取り組んでいる児童が多いが、3年は低学年同様、題材への理解力が乏しい児童が多く、めあてに沿った表現活動につながっていない。	・導入時、参考作品を例示するときに、よく鑑賞させ、めあてにそったどんな工夫があるか、気づきの時間を設定する。 ・導入時に材料と触れ合う時間を多くとり、材料のよさや面白さ感じ取ることで、表した思いをひろげさせ、自分なりの確かな答えとしての表現につなげられるようにする。
高	・図工の授業では、どんな題材に対しても素直に受け入れ、絵や立体に表すことを楽しもうとする雰囲気は、5、6年ともあるが、技能的に稚拙な児童も多く、自分の表現をより深めていこうとする気持ちがやや希薄で、深い学びにつながっていない。	・道具や用具の使い方、表し方の技法などの学びを充実させることで、表現の幅を広げ、より深い学びにつなげていく。 ・授業規律への意識を高める言葉がけを常に用い、個々集中して作品と向き合う授業環境づくりをすることで、よりよい表現を求める、より深い学びへとつなげていく。

8 家庭科

目標を児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会構築など、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することができる力を養う。		
・課題について、自分の生活経験と関連付け、自分事として、解決方法を考える力を高める。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・生活体験や、自分事として考え実践しようとする力の差がある。	・授業で取り組んだ内容を家庭の様子と関連付けて振り返る時間をとり、自分事として取り組む意欲をもつことができるよう授業づくりを行う。

9 体育科

目標を児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
・各種の運動（遊び）の楽しさや喜びに触れ運動する（遊ぶ）中で、具体的な自己の課題を見付ける。		
・自己の課題解決に向けて活動を選ぶ。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・ボールを投げるといった操作の技術面に個人差が現れている。 ・話し合いや集団活動で協力して取り組むことができる。	・児童の運動欲求を満たす活動を行うとともに、授業内で体を動かす時間を多く設ける。 ・体の使い使い方を意識させる活動、声かけを行うことで、考える力・調整する力を育む。
中	・自己の課題の把握ができない。 ・自己の課題の解決方法を適切に選ぶことが難しい。	・毎時間のめあてと振り返りを必ず行う。また、振り返りから次時の課題を見付けさせる。 ・解決方法を選び直せるようにする。
高	・自己の課題の具体性に個人差がある。	・課題を見付けるために、ICTの活用や仲間との交流を促す。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目標を児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
(英語活動・外国語活動)		
・外国語の知識を理解するとともに、聞くこと・話すことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・多くの児童が楽しく活動に取り組んでいる。 ・知らない言葉への抵抗感があり、なかなか話ことができない児童がいる。	・英語で表現する楽しさを感じられるような活動を工夫する。 ・モデルを示しながら、毎時間全員が発話する機会を設け、表現する楽しさを味わえるようにする。

中	・「話すこと」への積極性に個人差がある。	・最初にモデルを提示し、自分に合った学習の仕方（学習形態や回数など）で練習できるようにする。
高	・「書くこと」においての基礎的な技能に個人差がある。	・教科書のモデルを写す、途中までなぞり書きができるプリントを使う、自分で書く行を増やすなど、ワークシートの形態を工夫して、自分に合ったもので学習できるようにする。

II 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・他者の考えを受け入れて、適切な関わり方ができない場面がある。 ・自分の思いや考え方を言ったり、書いたりすることに苦手意識がある子がいる。	・役割演技等を通して、相手の気持ちを考えた行動ができるように指導する。 ・道徳での学習したことを実践につなげられるような具体的な行動についての指導をする。
中	・題材や価値によって、様々な考えをもつことができている。 ・友達の考えを受け入れられる。 ・自分の思いを言葉で伝える事が出来る児童と出来ない児童の差がある。	・自分の思いを言葉以外で表現出来るようにする。 (書く、挙手など)
高	・自分の意見を発表することに抵抗がある児童がいる。	・個人→ペア・トリオで話し合う授業を計画し、自分の考えをもったり、意見を発表しやすくしたりするようにする。

I 2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・調べる具体的なことで(3年:ヤゴ、4年:安全マップ)調べ学習への意欲をもつことができ、発表することを意識した工夫あるまとめができた。(模造紙、紙芝居)	・調べたことを分かりやすくまとめる方法を学ぶ(スピーチ、模造紙、スライドなど) ・相手意識をもった発表を、自分たちで考え、練り上げる場面を設定する。

高	・調べた情報を整理せずに、そのまま使用することが多い。	・情報をより分かりやすくまとめるための学習計画を立てができるようとする。
---	-----------------------------	--------------------------------------

| 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・クラスという集団のために学級をよりよくしたい、自分が出来ることをしたいという気持ちが育ち始めている。	・日々の当番活動については、教師主導で進めていったので、係活動については、児童の自主性を生かせるように指導していく。
中	・学級目標を決め、それに向かってクラスの一員としてできることを考えようとしている。	・学級会を今後も継続する。 ・学級目標をもとに集団生活から課題を見いだし、解決していこうとする意欲を育てる。
高	・学級会で意欲をもって学級会に参加しようとする姿が見られるが、自分たちで時間を考えながら行うことには課題が見られる。 ・なかよし班活動や係活動、当番活動は進んで行っている。	・学級をよりよくしたいという意識をもたせ、気軽に自分の意見を出せるように、教室掲示を工夫する。また、見通しをもたせ、児童が企画運営、最後の振り返りまで自分たちで行うように指導する。 ・学級活動の年間計画を見直し、計画的に指導していく。